

自然感じる手づくり園庭

那覇・相愛幼稚園

【那覇】那覇市長田にある相愛幼稚園が、2年に一度開催の全国学校・庭園ビオトープコンクール2025（日本生態系協会主催）で、学校・園庭ビオトープ賞を受けた。「ビオトープ」は森や林、草はら、池、小川、浜辺など、野生の生きものが生息する場所や空間のこと。創立70周年を迎える園では、2005年から「できるだけ自然に近い環境を子どもたちに残したい」との思いで保護者とともに園庭づくりを続けてきた。池や手洗い場、石窯などは園と保護者、園児が力を合わせて手作りした。

全国ビオトープ賞 保護者と力合わせ20年

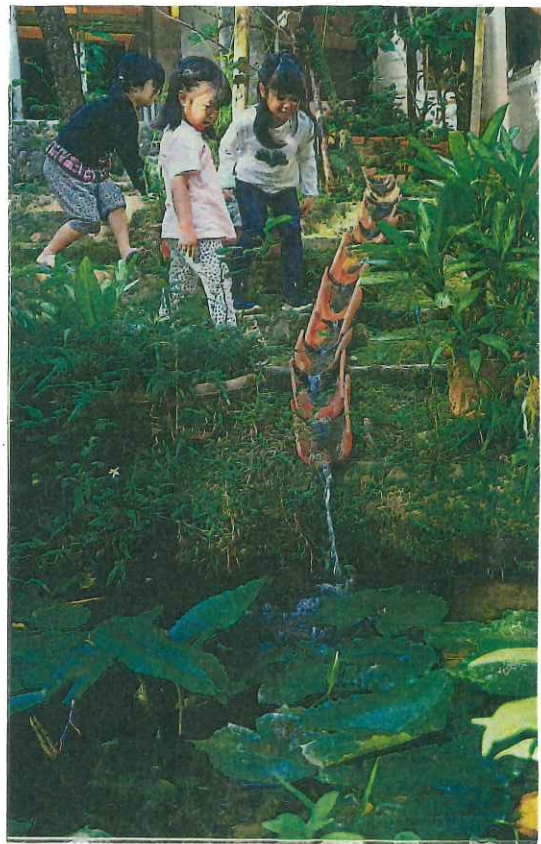
園庭にはサクラやザクロ、ビワ、バナナ、桑、グワバ、パパイヤなど多様な植物が季節ごとに実をつける。園児たちは日々の遊びの中で草木に触れ、実が熟すると「食べ頃だよ」と教え合いながら自分たちで収穫する。口いっぱい頬張る体験が、自然や食への関心につながっている。

大城厚子園長は「周辺に自然が少ない地域だからこそ、園の中だけでも本物の自然を感じてほしい」と語る。「保護者と『何ができるか』を話し合いながら少しずつ形にしてきた。石窯で焼き芋を焼いたり、オ

オゴマダラを追いかけたり、野鳥が飛んできて小鳥のさえずりが聞こえる日もある。子どもたちが自然の中で遊ぶ姿を見ると、続けてきてよかったと思う」と目を細める。

池の前にしゃがみ込む西川昊良さん（6）は「金魚が来るのを待って、餌をあげるのが楽しい」と夢中の様子。池尻みゆさん（6）は「ジュズサンゴで色水を作ると、きれいな色になる」と目を輝かせ、具志堅皓さん（6）は「桑の実やザクロを自分で取って食べる。ちょっと酸っぱい」と笑顔を見せた。

（金城乃愛）



園庭の池で「葉っぱ流し」をして遊ぶ園児ら＝8日、那覇市長田の相愛幼稚園